

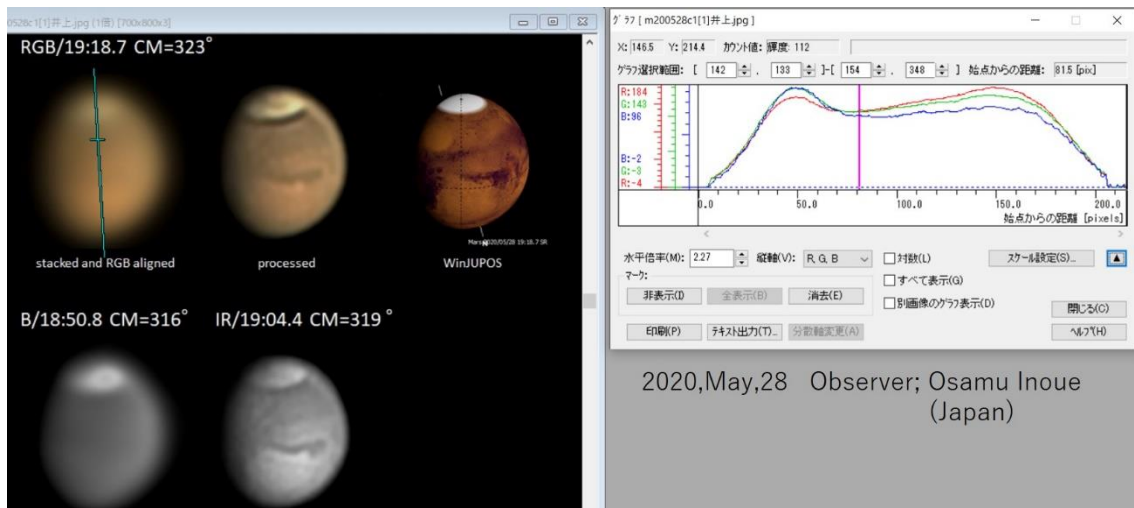
ダストベールの分布

ALPO Japan; Makoto Adachi

2020年5月末の時点で、西経330°付近の画像を引用し、画像解析ソフト「Makari」を使って調べてみた。

SPCの昇華が進み始め、SPCから北に向かって風が吹き始めている。そのため、SPCの縁では北向きの風が吹き出している。SPCの縁が黒くなるのは画像処理後の火星面で顕著に出てくる。実際には画像で見えるような黒さではないが、明らかに黒い帯となる。これは、地表の砂が吹き飛ばされ、黒い岩が露出した表面になっていると思われる、これをダークフリッジと呼んでいる。細かな粒子は、ここから北に向かって大気中に広がり、北に向かってダストベールになることもある。SPCからの風の多い地域ほどダストベールの光学的厚さが厚くなると思われる、画像を注目している。

今回使った画像は、強調処理をしていないものを用い、南北方向にスキャンしたものである。画像の緑色のラインは、スキャンした方向である。紫色の線（右図）は左図の短い緑色のチェックの位置である。



紫の位置から右は、赤のラインが一番上に位置している。すなわち、ここから南側はダストが大気広がっていることを示している。この時期、ダストは、赤道付近で光学的厚さがしだいに厚くなることが知られているが、この画像は、そのことを裏付けている。

スキャンした画像の下に、青画像があるが、紫の位置まで黒くなっており、この部分が暗れていることを示している。画像は、高精細ではないが、こういった傾向を見るときは、むしろこのような画像の方が望ましい。

2020, June, 01